

平成 27 年度第 7 回企業向け人権啓発講座

日 時：平成 27 年 11 月 11 日（水）14：40～17：00

場 所：京都市総合教育センター 永松ホール（4 階）

テーマ：第 22 回障害のある市民の雇用フォーラム

【発表】

○京都市立北総合支援学校 進路指導主事 白方秀和

○京都市立鳴滝総合支援学校 3 年 早川裕花

（開始）

○早川 ただ今御紹介いただきました京都市立鳴滝総合支援学校 3 年生の早川裕花です。

○白方 京都市立北総合支援学校進路指導主事の白方です。

京都市内の支援学校における企業就職に向けた進路の取組について説明をさせていただきます。

京都市内には高等部を持つ支援学校が 8 校あり、京都市立白河総合支援学校と京都市立白河総合支援学校東山分校、京都市立鳴滝総合支援学校の 3 校に職業学科を設置しています。また、白河総合支援学校と東山分校を除く 6 校に普通科を設置しています。

北・東・西・呉竹の 4 校は、京都市内を 4 つに分けた地域制の総合支援学校です。

鳴滝総合支援学校の普通科は、主として筋ジストロフィーなどの筋疾患の生徒が隣接する宇多野病院に入院しながら通学する病弱教育支援学校です。京都教育大学附属特別支援学校は、京都市とその周辺自治体を通学区域とする特別支援学校です。

これらの 6 校の普通科にも、数は少ないですが、企業就労を目指す生徒たちがいます。

それでは就職を目指している職業学科について、早川裕花さんから説明いたします。

○早川 職業学科は、鳴滝総合支援学校と白河総合支援学校、白河総合支援学校東山分校の 3 校に設置されていて、卒業後の企業就労に向けた取組をしています。

鳴滝総合支援学校には生活産業科の専門教科として、メンテナンス、クリーニング、福祉介護があります。

白河総合支援学校（本校）では産業総合科の専門教科として、食品加工、農園芸、情報印刷が設置され、白河総合支援学校東山分校では地域総合科の専門教科として、地域コミュニケーションが設置されています。

また、白河総合支援学校東山分校は平成 28 年度に東山総合支援学校として独立します。3 校とも専門教科によっては、特別非常勤講師として専門の知識と技術を持った方に指導していただいています。

学校で専門的なスキルを学ぶことを通して、働く意欲や態度を身に付け、様々な職種で、希望や適性に合わせてクリーニング師や介護職員初任者研修、ワープロやパソコンの資格検定にも挑戦しています。

○白方 平成 27 年度に卒業予定の高等部 3 年生は 190 名ですが、そのうち企業就労を目指す生徒が 94 名おります。昨年度は厳しい情勢の中にありながら、企業様の御理解により、70 名近い卒業生を採用していただきました。

職場体験実習ですが、様々な職種の事業所に実習をお願いしています。主な職種としては、スーパーのバックヤード業務、オフィスやビル、病院、福祉施設などのメンテナンス、ホテルや旅館の客室清掃、食堂などの^{ちゅう}厨房での食器洗浄、福祉施設でのランドリー業務などがあります。

事務系の仕事にも、請求書と納品書の数字や日付を確認する伝票整理の仕事や社内メール便の配達などがあります。ほかにも不要な書類のシュレッダー、備品類の整理や補充など、知的障害のある方ができそうな仕事がたくさん埋もれているように感じます。今後はそういった職種での実習もお願いできたらと考えています。また、実習の希望時間や期間は学校によって少しずつ違いますが、基本的には事業所の御都合に合わせて相談させていただきます。

次に、職場体験実習までの流れを簡単に説明させていただきます。実習の受入れをしていただける事業所に実習の担当者が伺います。そこで仕事の内容を見せていただき、生徒にできる仕事があるかどうか、どういう手順で仕事を組み立て直せば生徒が自分のできるようになるか、通勤にはどのような交通手段が使えるかなど、実習が可能かどうか見極めをさせていただきます。

次に、生徒の人選を行います。生徒たちは障害の程度や得意・苦手なことが一人一人違います。手順の分かりやすい仕事であれば、飽きることなく、こつこつと取り組める。コミュニケーションが苦手なので、人に話し掛けられると必要以上に緊張してしまう。特定の音や臭いがどうしても我慢できないなど、学校の中だけでは分かりづらいことでつまづいてしまうこともあります。

実習の期間中、生徒たちは自宅から直接事業所に通いますので、通勤手段や時間も考慮するなど、ジョブマッチングは実習がうまく行くための必要な要素になります。

実習先と生徒が決まれば、具体的に内容を打合せいたします。作業は何時から何時までか、休憩時間や場所、通勤の際にどの入口から入って、どなたに声を掛ければよいかといったことなど、また、直接担当していただく職場の方にも実習生の特性などをできるだけ事前にお知らせいたします。

生徒には仕事内容や必要な準備物、通勤方法などについて説明し、この実習で何を頑張るかという具体的な目標を確認します。実習が生徒にとって成功体験になるよう、失敗を防ぐ準備を整えます。

実習開始の1週間ぐらい前には、本人が教員と一緒に事業所を訪問します。現場を知り、実際にどんな仕事をするのか、家を何時に出れば始業時刻に間に合うのかなども確認します。また、職場では、実際に一緒に仕事をする現場の方にも事前に紹介していただき、お互いの不安を解消することで、スムーズに初日を迎えることができます。

保護者にも面接時や実習初日に職場に出向いてもらい、どんな所でどんな方と一緒に働くのかを知っていただき、実習期間は家庭でも支援をお願いします。

実習が始まると、初日は学校から実習担当の教員が同行します。生徒と一緒に作業をすることもあります。仕事そのものを教えるのではなく、コミュニケーションの取り方を伝えたり、分かりやすくするための手順書作りに協力したり、スムーズに仕事ができるよう支援をします。慣れてきたら徐々にフェードアウトし、生徒が自分の力でやり切れたと思うような黒子の役に徹します。

実習中は、必要に応じて実習担当の教員や担任が観察に伺います。また、保護者が見学に行くこともありますが、食品関係の事業所や病院など、部外者の立入りが難しい現場もありますので、担当の方と十分に連絡を取るようになっています。職場で困っておられることや本人が困っていることがあれば、その都度、解決を図るようになっています。

実習の最終日には、本人・保護者・学校が同席して、まとめの会を持たせていただきます。実習期間における意欲、スキルなどについて職場から評価を頂きます。ここでは、同じ職場で同僚として働くとしたらという観点で、職業人としての評価をお願いしています。

そこで出てきた課題は学校へ持ち帰り、今後の授業で取り組んで解決を図り、次回の実習の目標とします。

その職場で雇用を考えておられる場合は、実習を通して就労の可能性はあるか、生徒にこの職場で働きたいという意欲があるのかどうかということを確認めます。可能性のある場合には目標をステップアップしながら、再度、実習をお願いすることになります。

それでは、実際に生徒たちが体験している実習の様子を写真で見ながら、早川裕花さんに紹介してもらいます。

○早川 これはパン屋さんでの実習です。食べ物を扱う仕事なので、衛生面には特に気を使います。

この方はクリーニング師の国家資格を持っています。卒業生の先輩に教えてもらって、ブライダル用の貸し衣装にアイロンを掛けています。汚れやほつれがないかチェックしながら、丁寧にアイロン掛けをしています。

これは化学工場での事務補助の仕事です。パソコンのエクセルを使って、化学薬品のラベルを作っています。製品の種類がたくさんあるので、間違えないように気を付けています。

これは高齢者施設での実習です。介護職員初任者研修を受講し、将来は介護の仕事を目指しています。利用者さんの安全に気を配りながら、環境整備やお茶出し、配膳、下膳などの作業をしています。

これは物流会社のバックヤードでの仕事です。季節によって色々な野菜や果物を扱います。20 キログラムぐらいの野菜の入った段ボールを運ぶこともあります。

これは病院の^{ちゅう}厨房での食器洗浄です。食後の時間帯にはたくさんの食器が運ばれてきます。落とさないように慎重に扱っています。

ここで少し、私が現在取り組んでいる実習について話をします。私は一、二年生で宿泊施設の清掃や野菜の袋詰め、学生食堂の盛り付けや洗い物、そしてビルメンテナンス会社での清掃の実習などに取り組みました。

1 つずつ作業を理解して、自信を持って進めていきたい私にとっては、スーパーのバックヤードのように、その時々で扱う物も量もやり方も変わる実習では、毎日がとても不安でした。

そこで専門教科の授業でも学んでいるメンテナンスの力をいかして、毎日決まった場所を毎日決まったやり方できれいにしていく仕事に就きたいと思うようになり、ビルメンテナンス会社での仕事を希望して、雇用に向けた実習に取り組んでいます。

この写真は区役所の清掃です。まず、初めは来所者の方のおられないフロアの清掃から始まり、徐々に職場の方とペアを組んでトイレ掃除、ゴミ処理、階段清掃など、仕事の幅を広げました。3 回目の実習を終えた今は、来所者のおられる場所も 1 人で清掃し、駐輪所や会議室の場所などを聞かれても、分かることは落ち着いて答えられるようになりました。

そして、来所者の方々が気持ちよく利用できるように、トイレや廊下、階段、数々の部屋の中や外回りなど、それぞれ決められた時間内でやり切れるよう頑張っています。自分が掃除して、きれいになっていくのがとてもうれしく、是非、この会社で就職したいと思っています。

私たちは就職に向けた実習に取り組み、頑張っています。同じ仕事でも、職場の環境や一緒に働く職場の方、使う道具 1 つで、全く別な仕事と感ずることがあります。そこで色々な職場や仕事をできる限りたくさん実習で経験して、自分にできる仕事、自分に合った就職先を見付けたいと思います。そして、卒業後、職場で精いっぱい自分の力を発揮することで、事業所の中で大切な存在になりたいと思います。

このように、一人一人がそれぞれの力を発揮して働く場所を見付けるためには、より多くの職場が必要です。私たちは実習や雇用を考えていただける機会を求めています。

○白方 職業学科では、デュアルシステムとして企業と学校とのパートナーシップの下で、職業人としての人材育成を行う進路指導を推進しています。

デュアルシステムは在学中からの長期の実習を通して、企業が必要とする実践的な知識や技術を身に付け、卒業後スムーズに職場に移行できるようにするための支援システムです。

この雇用フォーラムを、京都市立総合支援学校デュアルシステム推進ネットワークとの共催として、より多くの企業に障害者雇用を進めていきたいと思っています。

デュアルシステム推進ネットワークの参加企業は次のとおりです。こちらのたくさんの企業の方々と協力して進めております。

○早川 私たち支援学校の生徒は、同じことを繰り返す作業に、黙々と取り組む根気強さを持っていることが多いです。また、言葉での指示より図や写真を用いた、目で見て分かる方法で指示していただくと分かりやすい人も多くいます。手順書があると、1人で作業を進めやすい場合もよくあります。

一人一人の特性に合わせた支援を頂きながら、真面目に一生懸命取り組む所は、職場の方からも褒めていただいています。

先ほど御紹介した職場以外にも職域は広がっています。レジの仕事やサービス業、事務の仕事や福祉施設での後方支援業務など、私たちが働く姿を見ていただく中で可能性が広がっています。

○白方 まずは、支援学校にお電話を頂ければと思います。学校ごとに企業向けの学校見学会もやっています。可能な方法を学校と一緒に探していけたら、生徒たちにとっても、企業にとっても、共にプラスになる方法が見付かると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【パネルディスカッション】

「仕事のやりがいと自己肯定感」

- ・株式会社高島屋京都店 総務部人事グループ課長 杉本明子
- ・京都市小川特別養護老人ホーム 総務課課長 小谷初代
- ・京都市立白河総合支援学校 卒業生保護者 佐々木幸子
- ・京都市立白河総合支援学校 校長 松田実（事務局長・司会）

○司会 ありがとうございました。

続きまして、パネルディスカッションに移らせていただきます。パネラーとしてお越しいただきましたのは、株式会社高島屋京都店総務部人事グループ課長の杉本明子様、京都市小川特別養護老人ホーム総務課課長の小谷初代様、京都市立白河総合支援学校卒業生保護者の佐々木幸子様でございます。

「仕事のやりがいと自己肯定感」をテーマに、それぞれのお立場からお話いただき、御参加の皆様からも活発な御意見・御質問を頂きたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、進行は本会の事務局長であります京都市立白河総合支援学校校長の松田実が務めさせていただきます。それではよろしくお願いします。

○松田 ただ今御紹介にあずかりました白河総合支援学校校長の松田でございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今から 90 分ほどですが、お付き合いいただきまして、各発表を聴いていただき、また、色々な御意見を頂けたら有り難いかなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本パネルディスカッションは、「仕事のやりがいと自己肯定感」というテーマです。今、鳴滝総合支援学校の生徒さんと北総合支援学校の進路主事からデュアルシステム等の説明がございましたが、今まで京都市の総合支援学校、特別支援学校、企業との連携の下、生徒たちの就労実現のために様々な取組をまいりました。

色々なスキルアップをし、力を着けて企業に就労していくということで成果を挙げておりますし、今後も企業様と学校とが連携して進めていくことにももちろん変わりありませんし、それは充実させていきたいと考えております。

ただ、それだけではどうもうまく行かないということも少し分かってまいりました。一生懸命スキルアップに取り組む、資格を取って頑張ってやっていく、それはそれで良いのですが、それだけではうまく行かない。コミュニケーションがうまく行かなかったり、人とのやり取りがうまく行かなかったりとか、そういったことも出てきています。何が原因なのだろうかと、今、職業学科 3 校でちょっと探っているところでございます。

自己肯定感をキーワードとして挙げさせていただいていますが、自己肯定感がなければ、幾らスキルアップしても職業人として仕事を続け、あるいは会社に貢献し、社会に貢献していくことは難しいのではないかと。何かあったときに、すぐにへこんでしまうこともあるのではないかと。逆に自己肯定感があれば、ちょっとしたことがあっても、それに打ち勝ってやっていける、そういうベースになるのではないかと。

その自己肯定感がベースになって働く力を身に着けていく所に、企業人として社会に貢献していける、そういう力が持てるのではないかと、現在、京都市の職業学科の学校で研究しているところです。それとちょっと関連付けまして、「仕事のやりがいと自己肯定感」というテーマ設定をさせていただきました。

このパネルディスカッションに、今日お越しいただいております障害のある方の雇用を進めておられます企業様、それから事業所様、そして、実際に企業就労されている御本人の保護者様、お三方に来ていただきました。

それぞれの企業での色々な実習や、そういったことの取組、あるいは就労支援の取組、また保護者様の立場から見られた子どもの頑張りなど、そういった所をパネルディスカッションの中で聴いていただき、今後、障害のある方の雇用を考えていらっしゃる企業様の参考になればということで、このパネルディスカッションをさせていただいております。

是非、色々とお聴きになりたいことがあれば、時間を取らせていただきますので、どんどん質問いただきまして、実りのあるパネルディスカッションにできたらうれしいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、皆様から向かって一番右側から、株式会社高島屋京都店の総務部人事グループ

課長の杉本明子様に来ていただいております。それからお二方目は、京都市立小川特別養護老人ホーム総務課課長の小谷初代様においでいただいております。それから、お三方目は、本日勤続 5 年表彰を受けられた京都市立白河総合支援学校の卒業生のお母様、佐々木幸子様に来ていただいております。よろしくお願いいたします。

進め方ですが、高島屋様、それから小川特別養護老人ホーム様、それから佐々木様、それぞれに発表いただきまして、その後、皆様から質問を受け付けて進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まずトップバッターといたしまして高島屋様にお願いしたいと思います。以前から身体障害や視覚障害のある方の雇用を進めておられ、総合支援学校の知的障害のある卒業生を、職場実習を経て雇用に導いていただきました。

今年 2015 年の 3 月から総合支援学校の生徒、卒業生を雇用いただきましたので、そこに至るまでの実習の様子や、雇用についての課題、それから実習の効果などにつきまして、お話ししたいと思います。

それでは杉本様、どうぞよろしくお願いいたします。

○杉本 皆様こんにちは。改めまして、ただ今御紹介いただきました高島屋京都店総務部人事グループの杉本明子と申します。今回は、このような貴重なお時間を頂戴し、誠にありがとうございます。本日は、先ほども先生から御紹介がありましたように、白河総合支援学校で行ってまいりました実習について一部御紹介させていただきたいと思っております。

私が障害者雇用の担当になったのは、今から 5 年前です。その頃、手足が少し不自由な方が多く勤めていらっしゃったのですが、知的障害を持つ方がどういった業務ができるのか全く分かりませんでしたし、私も上司も、百貨店はお客様と関わる業務が多いので、身体に障害を持つ方以外の雇用は頭から無理なんじゃないかと思っていました。当時はどのように採用すればいいのか、分からないことをどこに聞けばいいのか、分からなかったときに様々なセミナーや企業見学会に参加させていただきました。

今から 3 年前、この雇用フォーラムに参加させていただいたときに、卒業後に生き生きと働いていらっしゃる元生徒さんのお話や、先ほど早川さんのお話もありましたが、そういったお話を聴く中で、このような生き生きと一生懸命働ける方と一緒に仕事がしてみたいという熱い思いが込み上げてきて、その雇用フォーラムが終わった後に、先生に「うちでも是非、実習させてください。」とお願いしたのを今でも覚えております。

実習をするに当たって、周りのメンバーの理解を得る必要がありました。まずは私の上司を説得しようと相談したところ、「好きなようにやったらええやん。」とすぐにお許しが出たんです。ところが、実際にどこの職場を選んだらいいのか分からず、色々な職場に声を掛けたのですが、結局余り良い返事がもらえず、今度は白河総合支援学校の先生と御相談させていただきました。

どのような職場や業務があるのかというのを見ていただき、実際に相談させてもらって、幾つかの候補を挙げたのですが、その職場に「今度実習をしたいのですが、お願いできませんか。」と言うと、「いや、ちょっとちは無理やわ。」と断られ続けました。

「まあまあ、一度ちょっと学校に行ってみましょうよ。」と誘って、学校に一緒に行ったところ、その白河総合支援学校の生徒さんが野菜を袋詰めしている姿や、パンを作る姿を見て、「どうですかね。」「うん、行けるんちゃうかな。一遍やってみようか。」と。百聞は一見に如かずと言いますが、そこでオーケーを頂きまして、じゃあ、実習をしようということになりました。

その中でも、やはり業務を実際に教えるメンバーが必要だと思い、色々な方に声を掛けました。「私にできるかな。」と言いつつ、明るく「いいよ。」と了承していただいた職員がおりましたので、その職員に実習の指導をお願いしたわけです。そして、その次に、この業務ならまずできるかな、これができれば、次はこの業務かなという風に業務を順番に分けていきました。

その中で実習先として考えたのは、2つの職場で、1つは作業場、そして、もう1つはメール室です。作業場は、お客様から御注文いただいた御進物商品の包装や、配送品の梱包作業をする場所です。そして、メール室はビラやお客様への御案内の印刷、仕分け、はんこ押しといった軽作業を行う場所です。こちらの2つの職場で、2年前に3名の実習を行うことにいたしました。

まずは2年生のKさんです。この方は、先生の御配慮もあって、どこに障害があるのかと皆が不思議に思うぐらい仕事ができる生徒さんで、進物包装だけではなくて、9日間でパソコンを使ったのしを作る作業も、すぐに覚えてできるようになりました。

このことと同じ職場で、翌年2月に女子生徒のMさんの実習を行いました。このMさんが少しシャイな所があって、最初は挨拶の声が小さく、遠慮しているようでしたが、実習中は、まずは大きな声で挨拶をしましょうということを目標に、この9日間頑張ってくださいました。

このMさんは、驚くほど手先が器用で、作業については早い時期からすごく丁寧で、きれいに包装をしていただくことができました。1週目からミスしても「すみません、間違えました。」と報告することができて、2週目からは自分でミスに気付いて、自分でやり直すことができる所まで実習が進んでいきました。

もう少し元気があればなと思ったのですが、その実習中は、笑顔がすごくすてきで、何より非常に一生懸命、作業に取り組んでいただいたので、次の3年生の夏に、もう一度実習をしていただくことにしました。

その時に立てた目標が2つです。作業のスピードアップ。そして、大きな声で挨拶する。1つ目の目標については、1回目の実習よりも、きれいに素早く包装することができるようになりましたし、あと、のしの作成など新たな業務についても2回目の実習で徐々に覚えていきました。

百貨店はお中元などもありますし、結婚のお祝い、内祝いといった色々な作業の包装を承ります。そういった繁忙期は職員も忙しくなしまして、「次は、これをしてね。」という丁寧な指導ができるかどうか自信がないということでしたので、次は自分が配送の伝票を見ながら、どの順番で進めたらいいのか優先順位を考えて、「次はこれをしたらいいいですか。」と声掛けを行っていくことを目標にしました。

これはなかなか難しいかなと思ったのですが、Mさんに相談してみると、Mさんは「大体、次にこれをすればいいのかなというのは分かる。」と言います。ただ、「これをしてもいいですか。」という声掛けをするのが難しいということだったので、じゃあ、今回は、指示を待つのではなくて、次に何をすればよいのか、報告・相談をしていくことを目標にしましょうと、秋、11日から、今度は少し長い20日間実習を行いました。

この時の目標は、先ほどもお伝えしました職場メンバーへ自分から確認に行くなど、より積極的に周囲の状況を意識し、作業に取り組む、この2つ。かなりレベルの高い目標を設定いたしました。

職場環境や職場メンバーにも慣れてきたのか、このような高い目標にもかかわらず、作業の優先順位を考えて、職場が忙しくても、自分から積極的に、「次はこれをしてもいいですか。」と声掛けをしてくださるようになりました。

職場メンバーも、丁寧で本当にきれいに包装してくれる、そして何よりも、本当にいつも一生懸命に取り組んでくれるので、Mさんが卒業してからも、是非、一緒に働きたいなという思いが強くなりました。Mさんもお客様に丁寧に包装した品物を届けたいという仕事に対するやりがいを持ってくれました。

最後に、これは定休日がない小売業特有のものなのですが、土日定休でもなく、シフト勤務を行っておりますので、シフトに対応して勤務することを目標に、最終の実習を行いました。ただ、みんなで交代して休むシフト勤務にも難く対応していただくことができ、今年の3月、パート社員として入社していただきました。

こちらが先日、私が職場に行って、実際にMさんが勤務している作業風景を撮った写真です。

今回は小さなタオルセットを50セット包装する作業だったのですが、こういう軽いタオル系のものは、意外と商品が軽くて浮いてしまうので、なかなか難しいです。そのほかにも、百貨店なので、バカラやウェッジウッドといった高価な食器、あと羽毛^{ふとん}布団といった大きなもので、様々なものを包装してお客様のお宅へお届けするために梱包^{こんぱう}をしています。

そして、これがMさんの写真です。非常にきれいに撮れたので載せました。入社してお化粧もできるようになって、この半年でぐっとお姉さんになったと思います。

これが包装した商品の写真です。柄がきれいにそろっているのがお分かりいただけるでしょうか。私も入社して20年ほどたつのですが、なかなかこんなに柄がきれいにそろうことは、恥ずかしいことながら、ないんです。

そして 3 人目、I 君の実習を紹介いたします。この I 君は余り手先が器用ではないと、あらかじめ先生からお伺いしていましたので、作業というよりは、前半は人事グループでパソコンの入力作業、後半はメール室で印刷やはんこ押しをしていただきました。

パソコンにつきましては、当時、消費税が 8 パーセントに上がったところだったので、職員の通勤定期券がほとんど値上がりしました。その定期券の台帳を基に、職場や名前、通勤経路、金額、これらを全部打ち込んでもらいました。

ただ I 君、漢字が余り得意ではありませんでした。そこで、パソコンを入力するときには、IME パッドというパソコンに付いている機能で、マウスで字を書き、それを漢字に変換する機能を教えると、これがすごく器用にさくさくと打ち込んでくれるようになりました。ミスはほとんどなかったのですが、時間が非常に掛かりました。

しかし、とにかくいつも笑顔で、元気で、職場メンバーは皆、I 君にメロメロでした。不器用でも、作業が遅くても、I 君と一緒に働きたいなとみんなが思いましたので、何か I 君にぴったりの業務はないかなと探していたところ、一緒にお昼御飯に行くときに、「今までどんな実習が楽しかったか。」と聞くと、「喫茶店が楽しかったです。お客様と直接やり取りをする接客業をしたいです。」ということだったので、でしたら、うちの食料品売場で仕事はないかなと思い、次の 3 年生の夏に 2 回目の実習を行いました。

ドリンク、缶詰、調味料などの品出しや、カウンターで接客販売を行う実習でした。午前中はドリンクなどの品出し、そして、午後からはお客様にお買い上げいただいた品物を買物袋に入れるという作業をしてもらいました。

こちらの写真は、1 回目の実習の初日に行ったお辞儀の練習の様子です。この鬼教官みたいなのが私です。この鬼の特訓が終わりますと、こんなにきれいにお辞儀をすることができるようになりました。

そして、これが実習風景です。前の方に商品を詰めていって、新しい商品をその後ろに品出しをしていきます。このようにドリンクだけでも 200 種類ぐらいあります。売場全体で大体千、二千種類ぐらいの商品があるのですが、この 10 日間の実習で、どの商品が大体どこにあって、どういう風に置くのかというのを全て覚えることができました。視覚的な作業については力を発揮してくれ、すごく戦力になりました。

ですが、お客様からの問合せに対して、一生懸命答えようとしすぎてしまう所がありました。例えば、お客様が売場にいらっしゃって、「去年ここにあったバターが捜してもないんやけど、どこにあるんやろう。」と、この I 君に尋ねられたところ、去年は置いてあったのですが、今はないんです。今はないのですが、一緒に捜してしまうんです。でも、ないものは幾ら捜しても見付からないですよ。ですが、この I 君がいますと、売場のカウンターのメンバーがいつも以上に笑顔で接客してくれ、食料品の部長も「ええな。」と言ってくれました。

また、ある朝、職場を巡回していたときに、I 君の実習先の朝礼を行っていました。毎日、販売用語を唱和しているのですが、得てして機械的になるんです。この日は I 君が見

本となって、みんなの前で「いらっしゃいませ。」と元気よく声出しをしていると、みんなもつられて笑顔で、すごく元気よく唱和をしてくれていたの、実習先、売場にとってもすごく刺激になったのではないかと、実習中は本当に喜んでおりました。

今回は、お客様からの問合せがあれば、担当者にしっかりと引き継ぎましょうという目標を立てることにいたしました。

そして3回目の実習です。3回目につきましては、商品の品出しについてはほぼ完璧でした。実習中とは思えないほど、てきぱきと次から次へと商品をあちらこちらの棚へ品出しをしてくれました。

お客様がお話をされたら、どこでお客様のお話を切っていいのか分からないという課題がありましたので、そこについても、そのときには「担当者に引き継ぎます。少々お待ちくださいませ。」と言おうねと、きちっとせりふまで決めていたのですが、結局やはりお客様の役に立ちたいという思いが非常に強かったんだと思います。どこで切っていいか分からず、最後まで聴いてしまうというのは、この3回目の実習でも課題として残りました。

お客様はよく商品のことを御存じですから、I君にとって本当にすごく難しいお話をされる場合があります。実習生のバッジを付けているときには、「あっ、実習生なのね。頑張ってるね。」と、お客様も笑顔でお許しいただけるのですが、果たしてこの実習生のバッジを取ったとき、例えば、お客様からすごくきつくお叱りを受けたときに、この売場で雇用することが、果たしてI君にとって良いことなのかと非常に悩みました。

もっとI君に合った職場があるのではないかと、仕事があるのではないかと。この実習で一緒に働きたいという私たちの一方的な思いだけでは雇用につなげるのは難しいなと感じました。

あとは、準備不足だったこと。今でしたら、ロールプレイングなどもっと実践的なトレーニングをすればよかったなとか、もっと早くから売場で実習すれば結果は変わっていたのかなと思いますが、残念ながらI君は、高島屋の雇用にはつながりませんでした。でも今、I君は福祉施設で非常に元気に頑張っているそうです。夏前にも一度、I君が売場に遊びに来てくれたそうで、色々な人から「I君、今日来てたで。」「I君、めっちゃ頑張ってたで。」「今、福祉関係の仕事しているの、知ってますか。」「うん、聞いた、聞いた。」というようなやり取りが20回ぐらいありました。それぐらい、みんなの人気者だったI君です。

このように実習の風景を紹介させていただいたのですが、この実習を通じて感じたことを幾つか挙げさせていただきます。

まず、実習前は、先ほども先生のお話にもありましたように、先生と実習先について十分に相談ができました。なので、その生徒さんの職場適性に合った実習ができましたし、何より生徒さんの得意なことや課題を事前に把握することができましたので、準備ができたと思います。

また、実習中につきましては、生徒さんの一生懸命な姿が、本当に職場にも良い刺激に

なりました。

あと、事前打合せ、中間面談、まとめの会と、要所要所で、その生徒さん、保護者の方、先生と企業の私たちを含めて打合せもできましたので、その生徒さんに合った目標・課題を話し合うことで、実習中にめきめきとできるようになります。目標設定の大切さを改めて実感いたしました。

そして、実習では、生徒さんが自分の得意・不得意が分かりますし、チャレンジしたこと、やり遂げたことが、本人の自信にもつながると思います。

今年の10月に2年生の生徒さんが1名実習に来ていました。最初、先生からは「パソコンが打てません。」と聞いていたのですが、まずはちょっと数字から打ってみようかということで打ってもらったら、9日間で文字も打つことができるようになりました。まとめの会で最後、「パソコンもできるようになりましたし、自信が着きました。」と言ってくれました。このように、実習を重ねることで、どんどん自信も積み重なっていくと思います。

そして企業にとっても、業務の棚卸しをすることで職場の課題が分かり、いかに人に業務を分かりやすく教えるかという勉強にもなりました。また何より、先ほどもお伝えしましたが、元気で一生懸命な生徒さんと仕事をすると、私たちも初心に戻ります。元気をもらいます。なので、今ではみんな「今度はどんな子が来るんだろうな。」と、実習を楽しみにしてくれています。

そして最後に、採用活動において、当店が重視するポイントを3つ挙げさせていただきます。

まずは、人柄を重視するということ。元気で笑顔がいい、素直な子。素直な子と言いますと、「ありがとう。」、そして「すみません。」と素直に謝れる、そういった子です。そして得意・興味に合った業務が、この職場にあるかどうか。そして、何よりも職場の戦力となる方。本人がやりがいを持って頑張ってくれるか、この仕事をやりたいという意欲を持っているかという所を重視しています。

今までは、ある程度、職場を限定していたのですが、この実習を通して、生徒さんの適性を見て、その生徒さんに合った職場、そして業務を作り出していくことも必要なのかなと思っております。

これからも、生徒さんの可能性、そして企業の可能性を、実習を通じて広げていきたいと考えております。御清聴ありがとうございました。

○司会 杉本様ありがとうございました。実習の事例を具体的に出していただき、うまく雇用につながった例もあれば、つながらなかった例もお出しいただきました。その中で、実習を通して生徒が得たもの、それから企業様が、実習を通して得ていただいたもの等をお示しいただいたと思っております。

それでは続きまして、小川特別養護老人ホームの方から、報告していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○小谷 皆様、こんにちは。私は、上京区にあります社会福祉法人京都福祉サービス協会(以下、「法人」という)高齢者福祉施設「小川」(以下、「小川」という。)から、本日、出席させていただきました総務課長の小谷と申します。よろしくお願いいたします。

まず、施設概要から説明させていただきます。「小川」は、平成14年の1月に、当時126年という歴史のあった小川小学校の跡地に建設され、当法人が、京都市から指定を受けて運営させていただいております。隣には、みつば幼稚園があります。地域の自治会館が南側にあり、消防分団の詰所などとの複合施設です。

当法人は、特別養護老人ホームが、「小川」のほかにあと7施設、合計で8施設あります。デイサービスも同じく8箇所。小規模多機能型居宅介護事業所という新しい施設なのですが、これも市内に3箇所あります。

「小川」の特別養護老人ホームには、ずっと生活されている方が、70名。短期入所生活介護、一時的にここにお泊りになる方が最大30名。それからデイサービスセンター、通所介護と言われているが、その方が1日最大30名。それから京都市の委託を受けて運営させていただいている京都市小川地域包括支援センター、京都市上京区介護予防推進センターがあります。「小川」から5分ほど歩いた所に、小規模多機能型居宅介護支援事業所「笑顔とやすらぎの家おがわ」があります。この小規模多機能型居宅介護支援事業所というのは、すごく新しい施設で、通いもできて、泊まりもできて、そしてお家^{うち}にお伺いすることもできるという、御利用者の状態に柔軟に対応できる新しい取組の施設です。

実習を受けるに当たっては、担任の先生や進路の先生から生徒さんの情報をできるだけ詳しく頂戴いたしました。本人の性格や特技なども聴かせていただき、社会に出るため学校ではどのようなことを中心に指導されてきたのか、生徒さんの長所、短所、できること、できないことを多く聴かせていただきました。

鳴滝総合支援学校の方に見学に行かせていただき、メンテナンスのお仕事や、クリーニング、ワイシャツプレス機を使用してのプレス加工などすばらしい設備が整っていて、シワ1つなくきちっとされており、近くのホテルのシーツなども、そこでクリーニングして、きちっとアイロンを掛けて納めているとお聴きしました。

初任者研修(以前はホームヘルパー実習という)では、介護の資格を取れるよう指導をされており、実際の現場にも実習に行かれていたとお聴きしています。ベッドメイクを見学させていただいたのですが、とても丁寧にされていました。

先生の言うことをすごく忠実に守っておられると感じました。見学に行ったときに、遠くにいる生徒さんなのですが、「こんにちは。」と言って、きちっと立ち止まって挨拶をしてくれて、とても印象が良かったことを覚えています。何度か学校の方にも見学に行かせていただいたのですが、そういうことがすごく印象的でした。

今回、5年表彰された方ですが、実習期間は、確か平成21年の3年生の2学期から平成22年3月の卒業までに4回、実習していただきました。

実習の目標には、①働くことを中心とした生活を意識して実習に取り組むこと、②職場で求められる仕事の質やスピードを意識するということ、③行動の目標を明確にすることなどを掲げました。また、指示されたことを正確に理解して作業に取り組めるかが、すごく不安でした。質問や報告は、相手に伝わるように、意識してはっきり伝えるよう指導しましたが、やはり、とまどったりうまく伝わらなかったり、困ったこともありました。何度も聞き返すこと、ゆっくり話すことを約束し、相手に伝わるように話すことを決めました。それから、高齢者施設なので、車椅子を使っている方もおられて、振り向いた拍子に転んでしまわれる方もいらっしゃるの、廊下の掃除は周りをよく見て、利用者さんの安全を確保しながら作業をするよう伝えました。

実習期間は、平成 21 年の 10 月 13 日から平成 22 年の 3 月 27 日までで、3 月 1 日が丁度卒業式だったのですが、卒業式の日仕事をお休みして、卒業式に行ってもらいました。1 週間ほどお休みされたかと思うのですが、ゆっくり過ごしてもらって、また戻ってきてねということでそのようにさせていただきました。

一、二回目の実習は、時間的にも学校の時間で、まだ生徒さんだったので、慣れない環境での仕事に取り組む、働くということを少しずつ理解してもらおうとしました。三、四回目の実習は、仕事の時間に合わせようということで、9 時から 17 時まで、フルタイムで実習を行いました。これは本当に、社会人として労働時間に慣れるということ意識して、この設定をさせていただきました。

実習中は、メンテナンスを中心にいただき、毎回先生が付き添って来てくださって、「ここはできたか。ここがまだできていない。」というように、先生が後ろからずっと見守ってくださっていました。

先ほどのお話にもありましたが、実習期間の中間と、終わりには、必ず先生と御両親に来ていただいて、施設管理者と、実習の担当をさせていただいている私とでお話をさせていただきました。

その中で、本人からは今回の実習でどうだったかという意見と、頑張れたこと、頑張れなかったこと、次の実習はどうしたいのかなどお話を聴いて、次の実習につなげていくことを意識しました。

「小川」からは、改善して欲しいことやできていなかったことを伝え、次回までに学校でも指導してくださるよう願いました。

挨拶はしっかりできたか、トイレ掃除はうまくできたか、廊下の掃除で困ったことはなかったか、掃除残しはなかったか、今日 1 日で危ないなと思ったことはなかったかなど作業の報告を毎日意識して聴き取りました。

「小川」で働いてくれている卒業生には、例えばモップが折れたりとか、スポンジがクシャクシャで使えなくなったり、洗剤がなくなってしまう前に、自分で必ず伝えてくれるように、この時にずっと指導してきました。

メンテナンスをずっとしていただいているので職員と話す機会が余りなく、職員間のコ

コミュニケーションについても、カンファレンスで話し合いました。昼食時、職員と一緒に昼食を取り「いつも、どんなテレビを見ているの。」など仕事に余り関係ない話をしてコミュニケーションを深めて欲しいと職員にお願いし、一緒にお昼休みにテレビを見るなど交流の場を作りました。

私は、基本は玄関を入ってすぐ左側の事務所にいるのですが、毎朝、出勤時には必ず「おはようございます。」と言いに来てくれて、帰りも必ず「お疲れ様でした。お先に失礼します。」と言いに来てくれるようにするというので、できるだけ私たちも関わりを持ちやすいように体制を取らせていただきました。

仕事の内容はメンテナンスが中心です。1階から4階までの階段の掃除があります。北と南に2箇所あり、10段ぐらいが繰返しになっていて、段数としてはかなり多いです。各フロアの廊下の掃除、また、トイレ掃除もあって便座や便器、男性用の立ってする便器もあり、タイルが汚れていたらタイルを拭く、壁を拭く、手すりを拭く、トイレットペーパーの補充など多くあり、これらを中心にやっていただきました。

あと、廊下のモップ掛けがあるのですが、高齢者施設の、皆さんのイメージはどうか分からないのですが、「小川」にはすごく長い廊下がありまして、大体50メートルあるかなというぐらい長い廊下なのですが、モップで毎日きれいに掃除してくれて、最後には、ゴミを振って落として掃除機で吸うという作業までやってくれています。また、使用済みのシーツ類やおしぼりも回収場所まで出してくれています。

準備した物品ですが、学校で見せてもらった物品は、メンテナンスカートがあり、全てが1つのカートにそろえてあり、学校はそれで指導をされていたようですが、「小川」にはそういうカートもなく、置場所もなく、困ってしまいました。何よりも一番怖いのは、感染です。例えば、トイレのスポンジや、便器を洗う先端にタワシが付いたものがあるのですが、2階のトイレを掃除したものをそのまま3階で使ってしまうと、もし2階でノロウイルスとか下痢の方がいらっしゃるとあっという間に感染してしまいます。そこで各フロア全て同じように使用物品をそろえました。

トイレの個数は全部で18箇所あります。当時は職員が全部掃除をしていたのですが、今はその時間を御利用者に関わる大切な時間とさせてもらっています。

「小川」は大きな施設なので、色々な関係職種の方がたくさん見学に来られます。ほかの施設からも来られますし、指導監査や第三者評価もあります。長い廊下の隅々までモップを掛け、手すりも拭いてくれるので、14年目の施設とは思えないぐらいきれいです。自分で言うのも何ですが、「本当にきれいですねえ。」と言っていただいています。「掃除はどのようにされているのですか。」とよく聞かれるのですが、「障害者雇用の方で、掃除してくれる人に1人、来てもらっています。」と活躍していることを伝えさせていただいています。すごく感心されると言いか、「すごいですねえ。」と言ってもらえます。

正式雇用は平成22年の4月で、勤務日数は週5日間、9時から17時まで。その間、休憩時間は1時間です。土曜日と日曜日はお休みで、お正月やゴールデンウィーク、お盆など

は、家の用事があるかないかを聞いて、休みたいと言われたら有給で休んでいただきます。通勤は、学校在学中にも練習していただいたので、地下鉄烏丸線と東西線を乗り換えて最寄駅から歩いて通勤されています。

私自身、実習を受けることで、すごく悩んだことがたくさんあり、ずっと毎日毎日、同じ仕事を繰り返すので、飽きてしまわないかと感じたことがありました。高校生から社会人になるという環境の変化をどのように感じているのか、しっかり社会に付いて行けているのかとも思いましたし、しっかり休めているのかなあとも思いましたし、どんな話を家でされているのかとお母様に何回も聞いたこともありました。先ほどもお母様とお話しさせてもらっていたのですが、「いや家では、本当に何にも言わないんです。」とおっしゃっておられ、本当に悩みはないのかなあと思います。

良かったことを少しお伝えしたいと思います。

トイレはいつも本当にきれいでピカピカです。高齢者施設はトイレが臭うと思われる方もいらっしゃると思うのですが、ほとんど臭いがなく、御利用者に気持ち良くお使いいただいています。彼が休みのときは職員で掃除をするのですが、どうしても、彼ほどきれいにはできない所があり、お恥ずかしいのですが、汚れてしまっていることが多々あります。

「〇〇さん、今日休みなんかな。」「やっぱり〇〇さんがいつもやってくれているから、こんなきれいなんや。ほんまにもう、はよう来て欲しいなあ。」というような声。そのとき、介護課長が「そうやで。私たちがしないといけない仕事を、〇〇さんは一生懸命、毎日やってくれている。感謝しないとイケないですね。」と言ってくれました。職員も「ほんまやなあ。」と、そこで彼への感謝の気持ちが生まれました。

もう 1 つは、トイレに失敗される方がいらっしゃるのですが、いつも掃除してくれているから、臭いが無いのが当たり前になっていたことがありました。そのときに、ある男性の御利用者が、立ってトイレをされていて、それがちょっとズボンに付いて、タイルを汚されてしまったことに気が付かず、職員は「いつもこんな臭いはしないのに、どこからこんな臭いがするんだろう。おかしいな。」と、いつもは何もないトイレから尿臭がしてくることで気付くということがありました。彼がちゃんとやってくれることで、そういう気付きにつながるということはすごく大きいです。入居者さんも、「いつもありがとうね。御苦勞様です。」と声を掛けてくださることも多くあります。

法人の中で報告会があり、「現在、小川では 2 名の鳴滝総合支援学校の卒業生さんが働いてくれています。1 人はメンテナンス中心で、1 人は利用者様の身のお世話で、お茶や配ったり、お掃除をしたり、テーブルを拭いたり、お茶わんを洗ったり、女の子なのでそういう仕事に就いてもらっています。」と法人の中で報告したところ、法人 8 施設あるうちの 4 施設で、鳴滝総合支援学校の卒業生さんが採用され、現在も活躍してくれて、一緒に頑張ってもらっています。

雇用するに当たって、大切なことは、社会人として受け入れるということです。駄目なことは駄目と、ちゃんとはっきり伝えること。何で駄目なのかということをやちゃんと伝え

ないと、頭から言っても、恐らく怒られたとしか思わないので、何がどのように駄目なのかを的確に伝えることが大切です。

それと、悩みごととか、不足物品などを誰に伝えていいのか分からなくなるので、窓口は必ず 1 つにしておいて欲しいです。私が休みのときは、誰に言えばいいのかを決めていますし、そうすることで迷うことなくしっかり伝えに来てくれます。職員さんの中には、作業されている途中に「これは、こんなことしたらあかん。」とか、「これやっておいて。」など言われる方もいるのですが、彼らの中では、きちっと作業の順番がありイレギュラーなことを言うと迷ってしまいます。なので、絶対にそれは言わないように指導していて、不都合が生じれば、必ず私に言ってもらっています。それとつい言うてしまうのですが、「適当でいいよ。」とか、「大体でいいよ。」というようなことは絶対に避けて欲しいです。大体というのがどういうことかというのを理解できないこともあるのでここまではきちっとし終わったら報告させ、それから次のことを指示するというようにする方がうまく進むのではないかなと思います。

彼は 18 歳で「小川」に入職されたのですが、その時、他の職員と一緒に歓迎会を 4 月にやりました。お酒の場なので、どうしようかなと悩んだのですが、一応「歓迎会をするので、一緒に行きませんか。」と誘って、「参加していいか聞いてきて欲しい。」と伝えたところ、お母さんに相談されたそうなのですが、『もう社会人やから行ってきなさい。』と、お母さんが言ったので、行きます。」と返事をくれました。私はそれがすごくうれしかったのを覚えています。その場でみんなに「社会人なんやで。社会人になったから、お母さんが行っていいって言ってくださいました。だから、みんなも〇〇さんをよろしくお願いね。」というように紹介したことがありました。それから、ちょっと胸にぐっと来るのですが、こんなことがありました。

会費とかもしっかり頂きましたが、未成年なのでお酒は口にできませんでした。11 月がお誕生日なのですが、二十歳になった時に、丁度忘年会か新年会がありました。「もう成人になったのだから、ちょっと飲んでみるか。」と勧めてみたことがありました。すごい何かうれしそうな顔で「家族で食事をしたときにちょっと飲んだ。」と言って、「何を飲んだの？」とみんなに聞かれて、「酎ハイを飲んだ。」と。「おいしかった？」と聞いたら「ちょっとおいしかった。」という風に言うてくれました。このような会にも一緒に参加してもらうことで、いっぱい話もしてくれますし、仲間意識が生まれてくるのではないかなと思います。

当然、私たちにも、彼自身にも迷うことはありますし、おうちの方も迷うことはあります。そういうときは、京都障害者就業・生活支援センターという所に担当の方が 1 人必ずいらっしゃって、面談もされており、「何でも相談してくださいね。」と言ってきてくださっていますので、もし相談があれば、京都障害者就業・生活支援センターに相談していただけると、良い解決策が頂けるのかなと思います。

先ほどもお伝えしたのですが、作業の順番があるので「ついでにやっというて。」というのは絶対駄目です。できたことについては、「すごいね。頑張れたね。」と言って褒めてあげ

ると、すごく優越感を持ってくれますし、認められたと感じてくれるので褒めてあげてください。必ず言ってあげて欲しいのは、感謝の気持ちを伝えるということで、「ありがとうございます。」と言ってあげてください。退社されるときには「お疲れ様。気を付けて帰ってね。」と声を掛けるとか、「風邪、引いていませんか。」とか、「いつでもあなたを見ているよ。」というような声を掛けることも大切です。

彼は実は陸上の選手で、「今年はタイムが落ちていたんです。」と先ほどお母さんにお聴きしました。高校生のときに陸上の記録会があって、全国大会にも出場されていて、彼はすごく足が速いのです。地域の運動会には、町内の一員として、グループを作って出場するのですが、実は「小川」の有望選手なんです。リレーのアンカーで出場してもらったこともありますし、今年は介護福祉士さんの実習で来た学生とも友達になって一緒に走ってくれました。

これらを応援されている御利用者もいらっしゃいますし、「あの子、小川って、特養って書いてあるが、あの子は誰や。」と言われる方もおられますが、「あれは、いつもお掃除を頑張ってくれている方ですよ。」とお伝えすると「ああ、そうか。いつもほんまにきれいにしてくれているわ。」と言ってきて、「頑張れ～〇〇君、頑張れ～。」と応援されていました。

施設の職員として参加することで、地域にも彼の存在を分かっていただけますし、裏方でこうやって頑張ってくれている方もいるというのを少し分かっていただけるかなと思います。

そして、最後になるのですが、彼らはやはり、大きな可能性を持っていると思います。時間は多く掛かります。しかし、丁寧に、繰り返し繰り返し、失敗しながら指導していくことで、必ず持っている力を発揮してくれると思っています。伝え方や関わり方がちょっと苦手な彼らですが、仲間として迎え、関わることで、社会の一員として活躍することができるのではないかなと思いますので、皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。御清聴ありがとうございました。

○司会（松田） 小谷様ありがとうございました。

小川特別養護老人ホーム様は、本日、5年表彰を受けられました。今、話の中で出てきた彼も本日5年表彰を受けられました。

廊下やトイレがピカピカやということをおっしゃっていましたが、鳴滝総合支援学校にも、是非、一度見学に行ってみてください。廊下はピカピカです。ガラスは入っているか分からないぐらい透明なので、一度見ていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、お三方目に入っていきたいと思います。佐々木様をお願いしたいと思うのですが、佐々木様の御子息は、本日5年表彰を受けられました。レ・フレール・ムトウというおいしいパンを作っておられるパン屋さん、御存じの方もたくさんいらっしゃるかなと

と思いますが、そこにお勤めで、6年目に入ります。5年表彰を受けられました。

本日はまず、御本人が白河総合支援学校に在学中にどんな実習をして、挫折もありましたが、その挫折を経て、レ・フレール・ムトウ様に就労を果たしていったか、そういった様子のビデオがございます。NHKの『きらっといきる』という番組がありまして、6年前に放映され、丁度彼が卒業して、レ・フレール・ムトウ様に就職をする、その期間の様子を撮ったドキュメンタリーがあるのですが、それを15分ほど流させていただき、現在の彼が勤めている様子の写真等を見ていただいた後、お母様からこの5年間を振り返って、どうであったか、やりがいや自己肯定感といったことをキーワードにお話しいただきたいと思います。

(ビデオ上映)

○司会(松田) 今、見ていただいたのが佐々木さんの6年前の姿です。白河総合支援学校を卒業して、丁度就労されるとき姿です。

これから少し写真、スライドを見ていただきまして、現在の様子について見ていただきたいと思います。レ・フレール・ムトウ様は、岩倉にあるパン屋さんでございます。

レジの内側でパンの袋詰めをして店頭に出す準備をしています。その作業をされているところです。

それからサンドイッチの品出しです。お客様が来られたら、「いらっしゃいませ。」と声を掛けて場所を開けています。日頃からのお客様との自然なやり取りが感じられたと、写真を撮りに行った支援部長が言っておりました。

それから平日の昼過ぎにつきましては、切れ目なくお客様が来店されて動きにくい中、上手に場所を移動しながら品出しをしている様子が見て取れました。それからレジの奥でトングとトレーの拭き上げの作業をしております。

職場の方とのやり取りも本当に自然で、6年目も半年が過ぎ、お店の戦力として働かせていただいているという様子がよくうかがえます。現在の彼の姿です。

そうしましたら、お母様に、この五、六年間を振り返って、やりがいや自己肯定感ということに関連してお話しいただきたいと思います。お母様、よろしく願いいたします。

○佐々木 こんにちは。ただ今、ビデオに出ていました白河総合支援学校卒業生の母親です。早いもので卒業してから5年がたちました。卒業時には、これからは学校からのサポートの分も、先生方の分も家庭で補っていかねければと、気を引き締めたものです。

職場は左京区岩倉のおしゃれな洋菓子屋さんで、身だしなみ、白いカッター、爪、言葉使いには毎日気を使い、「今日も頑張つて。」と祈るような気持ちで送り出しました。今回、この機会にと、子どもと自己肯定感について話し合いました。自分は大切な存在だ、自分は掛け替えのない存在だと思える心の状態のことを仕事に置き換えて、5年間仕事を続けら

れたやりがい、頑張っていることなどを聴いてみました。

店頭でパンの袋詰め、パン出しの仕事をしていますが、レジはできません。電話も取れません。何度もレジができたかなと思ったそうです。パンの名前は頑張って覚えたそうですが、新作が作られる度に大変だったようです。また、周りのスタッフのほとんどがアルバイト、パートのため、いつの間にか古株になってしまいました。古株になったことで、逆にバイトの人に指示を出す立場になりました。それも店長から言われるのではなく、自分の判断で手の空いている人に、パンを出してとか、パンの名前を覚えてと色々そういうことを伝えたそうです。

お客様にも名前を覚えてもらい、店先に出ていなくても、5年前の実習時から来られている方や最近の方にも、「あの子は。」とか、「今日は佐々木君、来てるの。」と声を掛けてもらい、「頑張って働いているやん。これからも頑張りや。」の言葉で、仕事に頑張ろうと思ったようです。また、接客が好きという理由もあります。勤務はシフト制で、朝から仕事に入るときは、「佐々木君が朝からいるときは回転が速い。」とケーキ担当のスタッフ、パン担当のスタッフの方から言われるそうです。その理由の1つは、時間どおり仕事に入るからだそうです。5年前の実習先のスーパーのバックヤードの仕事では、仕事を任せられないとの結果に大泣きし、落ち込んだ様子で、その時の気持ちを聞いたところ、悔しかったとのことでした。

この5年間、店長をはじめスタッフの方々の御指導、また大きな心、長い目で見ていただき、本当に感謝しています。職場は、仕事が子どもを社会人に育ててくださったと思っています。本当にありがとうございます。以上です。

○司会（松田） 佐々木様、どうもありがとうございました。今日は表彰状を受けられて、また、万感の思いがあったのではないかなと思っております。

それでは、今日のパネラーの皆さんから少し御意見を頂戴して、フロアからも質問等を受けたいと思います。

まず、今日は仕事のやりがいと自己肯定感をテーマに挙げております。それぞれの職場で、今、御本人たちが仕事のやりがいをどんなことに感じておられるか。あるいは自分がその職場の中で掛け替えのない大切な存在だなと感じる部分など、そういった所を少しお話しただけなら有り難いです。また、そのやりがいを本人さんに持ってもらうため、企業様、事業所様が工夫や支援されているようなことがもしありましたら、併せてお伝えいただけたらと思います。よろしくお願いします。

そうしましたら、杉本様、よろしいでしょうか。お願いします。

○杉本 なかなか難しいテーマですが、やはり私たちが人事として職員に話を聴いていると、販売をしている者はお客様から「ありがとうね。」とか「良いのが見付かったわ。ありがとう、助かったわ。」と言われることがすごくやりがいにつながるというのを面談のとき

に聴きます。

それは恐らく、販売していない職員も一緒だと思いますし、例えば、私もめったにないことですが、上司から「ようやったやん。」と言われるとやっぱりうれしいですし、それは、今日御紹介したMさんについても一緒だと思います。頑張ったことは頑張っているなと認め、できていない所は注意をする。ただ注意するだけではなくて、次にちゃんとできたら、「できたな、ありがとう。」って、認めてあげることが非常に大切だと思います。ただ、今の職場でいうと、ちゃんとそこまできっちりと彼女のしているかなというのを、今の佐々木君のビデオを見て、もうちょっと頑張らないといけないなと思ったので、そこは私たちの課題だと思います。すごく羨ましいと思いました。

○司会（松田）　ありがとうございます。

続きまして、小谷様、お願いできますでしょうか。

○小谷　パネルディスカッションの中でも幾つかお伝えしましたが、本当に彼がいるから職員さんはその時間を利用者さんに目を向けていられるのですが、実際に、「ありがとうね。」と言っているかといえ、そういうことはまずないです。

とりあえず、トイレのお掃除が感染症でよくテレビや新聞でも採り上げられると思うのですが、ノロウイルスが発症して、それを放っておくと全館に広がって、お年寄りが亡くられるケースもあるのですが、うちは今のところ、支援学校卒業生のN君が入ってきてから、1度だけあって、そのときは職員全員でお掃除を全部しました。N君も移るといけないので休んでもらって、職員が全部掃除したんです。こんなしんどい掃除をいつもやってくれているのかと。去年に関しては食い止めることができて、やはりそれは毎日きちっと掃除してくれている彼のおかげやなというのが、伝えられているかどうかは分からないのですが、事実そうだと、職員の中ではもちろん、上司も分かっている、そこは本当に感謝しております。だからすごいなと思います。

○司会（松田）　ありがとうございます。お母様、いかがでしょうか。

○佐々木　先ほども言いましたが、店頭で働いていますので、お客様との接点も多いですし、お客様から頑張ってとか、本当にありがとうと言われることも、本人にとってはやりがいのある一番の理由になっていると思います。また、店長にも「できるようになったやん。」とか、「あ、できるやん。」とか、細かいことをその都度言っただけなので、本人の中では自信につながっているようです。色々愚痴があっても、私も社会人なので、色々社会人としてアドバイスをして、そういう5年間だったように思います。嫌だっという愚痴は一度も聞いたことがありませんし、本当に職場に恵まれていると思います。

○司会（松田） ありがとうございます。パネルディスカッションの中でもありましたが、自分が先輩になり、職場の中で古株になって、新しく来られたアルバイトの学生さんたちに自分が教えていくことを通して、自分が今までやってきたことの振返りやこれからも頑張っていこうという思いにつながっていくのではないかと、先ほどお母様にお伺いしていたところです。ありがとうございます。

すみません、時間がもう余りなくて。フロアの方から何か御質問・御意見・御感想等ありましたら頂きたいのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、最後にお三方に、共通してお尋ねしたいことがあります。

障害のある方を雇用されてきまして、良かったこと、発表の中でもあったかとは思いますが、それを通して、これから社員としてどんな風に育っていった欲しいかということを一言ずつ頂けたらと思います。お母様には、これからどんな風に成長して欲しいかということをお伝えいただけたらと思います。

それでは杉本様からよろしいでしょうか。お願いします。

○杉本 とにかく元気で、ずっとこの会社で働きたいと思ってもらえるような職場づくりを考えていると思っていますが、Mさんについては、今年3月にまだ入社したばかりなので、このまま頑張っていきたいなと見守っているところです。ほかの障害を持つ職員もいっぱいいて、今はパート社員という形ですが、優先採用制度という、このまま契約社員、そして社員になるというステップアップの機会があって、入社して5年目の男の子が、是非、契約社員にチャレンジしたいということで、去年初めて試験を受けました。残念ながら、結果的には合格しなかったのですが、やはりそういう自分の会社でやりがい、目標を持って、将来こういう風なことをしたいという目標が明確になっていることは、すごく今の仕事、そして自分の成長にもつながると思いますので、そういった所は、今後みんなに持っていてもらいたいなと思っています。

○司会（松田） ありがとうございます。

小谷様、お願いいたします。

○小谷 病気をせず、元気でずっと働いてくれたらうれしいなと思います。メンテナンス中心で、ちょっと地味な仕事かなと思うのですが、常に自信を持ってやっていった欲しいです。僕はこんな工夫をしているんやとか、こういう風にやっているからきれいにできるんやとか、自分の工夫をほかの職員に教えられるような立場になってくれたら、もっと専門的に任せられるようになるのかなと思います。

○司会（松田） お母様、よろしくお願いします。

○佐々木 番組の中で、店長が「自分の職場に貢献できる」という言葉があったのですが、働いている限りは、その職場に貢献しないといけなくて、今、その意味が本当に分かっているのかなと。また、次の課題ですが、本当に自己管理しながら、お店のために、アルバイト、パートも多いので、欠員が出るとやっぱり社員は六、七日連続勤務のときもありましたので、そのときに本当に貢献できるという意味をもう一度考えて、仕事も成長してもらえたらなという風に思います。

○司会（松田） ありがとうございます。

番組の中にもありましたし、御報告の中にもありました。京都市の総合支援学校、特別支援学校は、企業様と連携させていただいて実習をさせていただいています。職業学科に限りません。地域制の支援学校の普通科の方も、高等部に就職を目指している子どもたちがいて、実習に行かせていただいています。手を取り合って情報交換をし、そして、お互いが良い形で、生徒が就職できて、自分の夢を、その後の人生設計を実現していくという風にしていきたいですし、企業様には戦力として使っていただける生徒を育てていきたいなと思っております。

お互いに良い形でさせていただけたらうれしいなと思ってしますので、いつでもお声掛けください。学校見学也大歓迎しております。お話をということがあれば、就労支援担当者すぐに派遣いたしますので、是非、お声掛けいただけたらと思います。

障害のある方の雇用に向けて、どうぞお願いしたいと思います。また、今後、発達障害のある方、あるいは精神障害のある方の雇用の法整備もございますので、その辺のことも合わせて、私どもも考えていきたいなと思っております。また、どうぞ御意見を頂戴できたらと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

今日は高島屋様の杉本様、それから小川老人ホームの小谷様、そして、レ・フレール・ムトウ様にお勤めの佐々木様のお母様、お三方、本当にありがとうございました。

皆様、どうぞ拍手をもってお送りください。

ありがとうございました。これでパネルディスカッションを終わらせていただきたいと思います。

（終了）